

活動報告書

報告者氏名：坂口 卓哉

所属：京都市立東総合支援学校

記録日：2013年 2月 25日

【対象児（群）の情報】

・学年

高等部1年（女子）

・障害名

発達遅滞

・障害と困難の内容

漢字検定7級合格。四則計算ができる

情緒不安により対人的なコミュニケーションが取りにくい場面がある。

緊張すると筆談など非言語系のコミュニケーションも難しいことがある。

【活動目的】

・活動のねらい

校外学習の実施にあたり、主体的に計画を立て、必要な情報を集め、また当日も作成した計画にのっとって行動することを目的とした。iPadを用いて必要な情報の収集をしたり、GPS機能を使って目的地まで到着したりすることを目指した。

・その活動を実施した期間

平成23年 5月 校外学習① 学校近辺

平成23年 6月 校外学習② 学校近辺

平成23年 7月 校外学習③ 公共交通機関の利用

平成23年 10月 校外学習④ 公共交通機関の利用

平成24年 1月 校外学習⑤ 公共交通機関の利用 昼食

・実施者

坂口 卓哉

・実施者と対象児の関係

学部指導者

【活動内容と対象児（群）の変化】

この取り組みでは「自ら考え、選び、行動する」ことをテーマとして、生徒の主体性を重視した校外学習を実施した。これらの学習を進めるツールとして iPad を活用した。具体的には以下の手順で学習を進めた。

- ①目的地、活動内容、食事場所の決定（safari の活用）
- ②経路の検索、使用する公共交通機関の検索（マップ、乗換案内の活用）
- ③行程表の作成
- ④行程表に基づいた当日の活動（マップ、カメラの活用）
- ⑤振り返り、facebook への投稿（写真アプリの facebook の活用）

このような活動においては、従来パソコンを利用した学習が行われてきたが、持ち運びができるということ、操作性が簡易であること、また将来的に生徒がタブレット端末もしくはスマートフォンを所持する可能性が十分にあることなどをかんがみて iPad を活用することとした。

（1）対象児童生徒（群）の事前の状況

自宅から公共交通機関を使って自主通学ができる。移動や交通機関の利用に関して基礎的なスキルを身につけていて、決められたバス停や駅で間違えることなく乗り降りができる。地図を見ての移動はまだ慣れていないので、初めて行く場所で臨機応変に動くのは難しい。行った場所であれば道を覚えられる。

指示をされたことを丁寧にするのは得意な反面、自分で主体的に判断し、行動することに対して消極的になるところがある。誰かが決めたことを指示を受けて行動するという意識が強いため、自ら判断し、選択して行動するような機会を与えられるととまどうことがよくある。

公共交通機関の利用については一定のスキルがあるため、「マップ」「乗換案内」などのアプリを使って経路作りができるようになることを目指す。また目的地や活動内容、食事場所等も「safari」などを用いて自ら調べて決定し、実施することで主体的に活動することの自信を高めることを目指す

（2）活動の具体的内容

① 使用アプリ，自助具，機器 等

- ・アプリ名 「マップ」、「safari」「乗換案内」「facebook」
- ・アプリの特長（なぜそのアプリを選んだか）

safari：タウン情報誌と併用して目的地や活動内容、食事場所などの情報を集める調べ学習の核として使用した

マップ：おおまかな経路設定に活用した。歩行の際の移動にかかる時間を調べ、行程の作成に役立った。またGPS、方位磁石と連動した経路表示を使って指導者のアドバイスのもと、目的地にたどり着くために使用した

乗換案内：マップで経路として選択された交通機関（京都市営地下鉄）の乗り降りの時刻を決定するのに活用した。マップで調べた経路に乗換案内で調べた乗り降りの時刻を組み合わせることで当日の行程表を作成した

Facebook：学習の振り返りに活用した。また担当指導者や本校校長とのコミュニケーションツールとしても活用した

② 指導者のかかわり方

アプリの操作方法については指導者が操作する iPad をデジタルテレビに接続して見本とし、一緒に操作して練習をした。行程表の枠を用意し、調べた項目を一つずつ書き込むことで当日の行程表が完成するようにした

(3) 対象児童生徒（群）の事後の変化

5回にわたる校外学習の実施によって、アプリの操作には習熟が見られ目的に則った使い方ができるようになった。「マップ」でおおまかな経路を調べ、「乗換案内」で調べた公共交通機関の乗り降りの時刻を組み合わせて、行程表を完成させることができるようになり、また実際にその通りに活動することができた。自分の行きたい所を自分で調べて、指導者に案内されることなく自ら行動することができるようになった。

「facebook」は、対面してのコミュニケーションが苦手な対象生徒の新たなコミュニケーションの場となった。回数自体は多くなかったが時おりウォールに写真とコメントを up した。最初は「〇〇をしました」といった端的な事実のみを up していたが、「たのしかった」「次は〇〇したい」といった思いを表現することもみられるようになった。

【報告者の気づきとエビデンス】

目的地の決定、経路の作成、当日の移動など校外学習を実際に行うにあたって指導者の支援が多く入るような事柄において、iPad を活用することによって、生徒が主体的に計画を立て、判断して行動する校外学習の実施が可能となった。

特に「マップ」は出発地と目的地を入力するだけでおおまかな経路が作成でき、さらに GPS 機能によって当日の移動にも大いに役立ち多少の道間違えはあったものの指導者の支援がなくても目的地に到着することができた。初めて行くような場所で目的地にたどり着くには地図や標識、建物などのランドマークを指標にして現在地と方角を常に把握することが必要であるが、「マップ」アプリを使えばこれらのことが非常に容易になる。従来、生徒主体の校外学習をするにあたってもっともネックとなっていたことで、経路作りまではパソコンを使ってできたとしても、当日の移動は指導者の先導になりがちであったが、このアプリは生徒が先導する、より主体的な校外学習の実現を可能とした。1回目の校外学習では指導者が隣についてアドバイスをしながら移動したが、5回目の校外学習では生徒が「マップ」を見ながら先導するのを指導者が後ろから見守るという形になった。

目的地の決定においては、タウン情報誌の方がイメージを持ちやすかったが、詳細を調べるのに「safari」を使った。「乗換案内」はパソコンのインターネットで検索するより、簡易に使うことができた。また当日、予定が変更になった場合も速やかに検索し直すことができる点で優れている。他の生徒が校外学習をした際には

実際このような使い方をした。



移動の様子。5回の校外学習の実施によって指導者の支援がなくても目的地に辿りつけるようになった。

「facebook」は新しいコミュニケーションの形となった。Upの回数を増やしたり、公開の範囲を広げたりといった課題は残るが、「〇〇しました」から「〇〇したい」といった思いを表現する機会となった点は評価に値する。

こうしたアプリは、タブレット端末やスマートフォンを持つものなら誰もが使うような生活に密着したアプリなので、将来、対象の生徒が使うようになる可能性が十分にある。学校での学習を通して使いこなせるようになってもらいたい。